

後藤寺まちづくりに関する提案書

平成30年3月

“ないものねだり”ではなく“あるもの活かし”

後藤寺まちづくり

ないある後藤寺実行委員会

目次

はじめに	1
1 “ないものねだり”ではなく“あるもの活かし” 後藤寺まちづくりの検討方針	2
2 “ないものねだり”ではなく“あるもの活かし” 後藤寺まちづくりの提案	3
3 資料編	
実行委員・まちづくりメンバー	13
後藤寺のまちの課題洗い出し	14
後藤寺まち歩きで見えてきたもの	15
世代ごとに見えてきたもの	23
後藤寺まちづくりから波及したもの	25
自分ごと宣言	26
参考（報告資料冊子添付）	



はじめに

この後藤寺のまちづくりの活動は、福岡県女性による元気な地域づくり応援講座事業としてスタートしました。なぜなら、自分の住むまち、自分の働くまちの取り組みの情報の蚊帳の外となっている女性があまりにも多いのが、このまちの実感だからでした。

そんな中「わたしたちのまちは、わたしたちがつくる」をモットーに、ないものをねだるのではなく、あるものを活かしたまちづくりを考え、実行するために、「“ないものねだり”ではなく“あるもの活かし”後藤寺まちづくり」の活動を、女性実行委員5名が全国で有名な男性アドバイザーの知識と手法に助けをいただきながら、ともに始めてまいりました。

昨年8月の事業スタートには、そんなわたしたちの思いと行動に共感くださった後藤寺のまちを思う13歳～86歳までの42名ものメンバーが集まり、感心の高さに驚くほどでした。

メンバーは、賑やかな時代の面影も感じられないほど寂しさが増す後藤寺のまちの現実を十分に理解しながらも、そんな後藤寺のまちをなんとかしたい！と心から思う、後藤寺に住んでいる人、後藤寺で働いている人、後藤寺に通っている人、後藤寺に思い出がある人、後藤寺にこれからも関わっていきたい人たちです。

8か月にわたり、真剣に、まちを歩き、見て、聞いて、感じて、考えて、未来の後藤寺をわくわく想像しながら、行動する覚悟まで宣言いたしました。気が付けば共感者はさらに増え、メンバー52名と実行委員、アドバイザーの思いや覚悟がこの提案書には詰まっています。

後藤寺の歴史や文化を重んじながらも、時代の流れや世の中のニーズに応じ、未来を想像し、まちを創造していく、次世代に誇れるまち後藤寺となるよう、この提案をこれからの後藤寺のまちづくり整備や、後藤寺地区都市再生整備計画などの参考やアイデアとして取り入れていただけますことを心よりお願い申し上げます。

平成30年3月

ないある後藤寺実行委員会実行委員一同
“ないものねだり”ではなく“あるもの活かし”
後藤寺まちづくりメンバー一同

1 “ないものねだり”ではなく“あるもの活かし”

後藤寺まちづくりの検討方針

- (1) ないものねだりではなく、**あるものを活かす**まちづくりをしよう
- (2) あれがない、これがない・・・ではなく
地域にある資源をみつけてみつめてみがいていこう
- (3) 行政がやってくれないと！行政におんぶに抱っこ！ではなく
ここまでは自分たちでやるから、ここからは行政にお願いしたい！
- (4) 男女、世代に関わらず、人の意見をよく聞いて尊重し、批判しない
同じ世代だからこそ、共感できる！
違う世代だからこそ、分かり合う気持ちをもとう
女性のパワーや能力を、男性とともに、引き出そう
- (5) ひとつとではなく「**自分ごと**」として**市民・行政が協働する**ことが大切

- ① わたし（たち）が取り組みます！
「自分でここまでできるが、こういうところが不足しているので、行政や民間、専門家等の知恵や力を借りて、主体的に実現したい」など
- ② わたし（たち）の力を貸します！
「自分には、こんな力、ノウハウ、人員、場所等がある。提供するので、活用してほしい」、「わたしたちは、こういうお手伝いや支援ができる」など
- ③ 取り組みを提案します。取り組む際には協力します！
「こういう取組を、行政と民間団体等が協働して実施してはどうか」
「実施することになれば自分も何らかの形で参加・協力したい」など
- ④ わたし（たち）はこんな取組をしています（情報提供）！
「自分たちはこんな取組をしており、ぜひ参考にしてもらいたい」など

2 “ないものねだり”ではなく“あるもの活かし”

後藤寺まちづくりの提案

この8か月にわたる“ないものねだり”ではなく“あるもの活かし”後藤寺まちづくりの全7回の活動を通して、まちを歩き・見て・聞いて・感じたこと、また、後藤寺での日々の暮らしや、通勤、通学、訪れる度に感じていることから、みんなが暮らしやすく、訪れやすい後藤寺のまちとなるために、以下のとおり提案いたします。

(1) インフラ整備

① J R 田川後藤寺駅周辺交通網の整備

後藤寺には最大の“あるもの”J Rや平筑・西鉄バスやコミュニティバスなど公共交通が揃っています。にもかかわらず一体感がなく乗り場を含め分かりづらい面があります。交通機能の配置を見直しJR後藤寺駅に起点を集中することにより、より便利で分かりやすい駅、そしてその駅を中心として後藤寺のまちが広がる空間を創ります。

-
- ・西鉄バス・コミュニティバスの乗り入れ
 - ・雨に濡れない乗換え
 - ・コミュニティバスの市郡での合理化
 - ・送迎の流れのためのスペース
 - ・大型トイレの設置
 - ・駅構内エレベーターの設置

② 駅周辺駐車場の整備

車社会と商店街を結ぶ動線の確保と、整然とし駅周辺から広がりを見せる商店街が一体となるシンボリックな空間を創ります。

-
- ・イベント時の駐車場の確保
 - ・観光バスの停車
 - ・福祉施設バスの停車
 - ・駐輪場の整備
 - ・パークアンドライドの利用

③ 整備に伴うバリアフリー化

小さい子供から高齢者まで、健常者も障害者も分け隔てなく集える街づくりにはユニバーサルデザインは欠かせません。今後各所にて道路および建物の整備がなされる際には、ユニバーサルデザインの導入が望ましいと考えます。誰にでも優しい街はだれにでも優しくできるまちである。そのようなまちを創ります。

・ユニバーサルデザインの投入

④ ターミナル跡地計画

廃止になった西鉄バスターミナルは後藤寺のシンボルであり、存在した映画館や飲食店は多くの人の良き思い出です。そのような大切な場所を今後どのように使っていくのか、また後藤寺の交通の要である場所には何が適しているのか、現代には何が適しているのか検討します。

・跡地利用検討会の設置

私たちの希望 立地適正化計画への参画を希望します!!

⑤ 公園スペース

JR田川後藤寺駅から丸山公園へとつながる商店街や、中央公園へとつながる豊かな並木道が公園の楽しさへのアプローチとなり、各々特色があり魅力が再発見できる公園を創ります。

・案内版や散歩コースの選定による田川後藤寺駅から丸山公園・中央公園への流れの誘導

- ・小動物などの公園内の再整備
- ・点在する小公園のベンチ等の確認
- ・池を利用した釣り環境の整備

私たちの希望 丸山公園の整備計画への参画を希望します!!

(2) 賑わいの創出

① システムの構築

商店街が気持ちの良い暮らしのある通りであり、人々が集う賑わいのある空間に変わるために動けるシステムを構築します。

-
- ・ 空き店舗のリノベーションのノウハウの学習
 - ・ チャレンジショップの場を創出

② 時代のニーズにあったまちづくり

JR後藤寺駅周辺を中心に観光客や学生が回遊の拠点とするまちを創ります。

-
- ・ 大学生が提案するシェアハウス商店街
 - ・ いいかねパレットを訪れるインバウンド客への対応連携起点

③ 教育機関との連携

保育園から高校までが存在する後藤寺、そして福岡県立大学を擁する田川市の恵まれた教育立地環境を生かし、各学校と地域が連携した教育ができ、独自のカリキュラムを構築できる学校のある豊かな教育環境のまちを創ります。

-
- ・ フィールドワーク型の授業の単位化

④ 子どもを預ける場所

男女共同参画時代・働き方改革時代に沿った時間の使い方ができる街、安心して子供を生み育てることのできるまちを創ります。

-
- ・ 現役を退いた保育士さんの常駐した空間
 - ・ 子供が遊べるキッズスペース

⑤ 集う場所

世代を超えて望まれていることは集う場所です。空き店舗を利用し空間の魅力付けを行い幅広い世代に応えることのできる空間を創ります。

- ・ 中高校生はお迎え・習い事の待ち時間を過ごす場
- ・ 子育て世代は情報交換の場
- ・ おじいちゃんおばあちゃん世代はワークショップ主催の場
- ・ 高齢障害者は情報交換の場

⑥ ママも集います

若い世代のネットワークを借りて商店街の魅力を発信します。

- ・ 一時託児場所の確保
- ・ キッズスペースの確保
- ・ 会話のできるカフェと夕食のお買い物場所の提供

⑦ 孫と遊びます

思い出はまちへの愛着を生み将来のまちづくりへと繋がります。おじいちゃんおばあちゃん世代は懐かしい商店街を思い出し、孫世代はおじいちゃんおばあちゃんとの新しい思い出を創ります。

- ・ 平成筑豊鉄道の利用
- ・ 駅から公園への散歩
- ・ ちょっと孫を預けてのワークショップの開催

⑧ 高齢者も元気に過ごします

まちに出て元気に過ごすことが医療費や介護費の削減に繋がります。安心して過ごせる空間と若い世代との交流のできるまちを創ります。

- ・ 公共交通網の充実
- ・ ユニバーサルデザインの充実
- ・ 若い世代への伝播

(3) 市長へのプレゼン

この提案書を作成するにあたり、ないある後藤寺実行委員及び、“ないものねだり”ではなく“あるもの活かし”後藤寺まちづくりメンバーが、それぞれの覚悟を、それぞれの世代ごとに、直接、市長へプレゼンさせていただく機会をいただきました。言葉でお伝えした思いと覚悟を、以下に重ねてお示しさせていただきます。

① 覚悟を決めた「後藤寺三女」の私たち

キミカド手芸店／孫 公門 友里絵

まずはじめに今回の活動で後藤寺という町のことを本当に多くの方が真剣に考えて、意見を出してくれたことにとっても感謝と感動の気持ちでいっぱいです。

私は後藤寺商店街生まれ、商店街育ちですが私の生まれ育った頃は全盛期の商店街から少し衰退した後でした。それでもほぼ全てのお店は毎日開いていて、お祭りや夜市の時もちろん日常的に人が溢れかえっている思い出しかありません。学校から帰ると近所のお店を順番に遊んで周り今思えばお店やさんごっこのように色々な店先のお手伝いをし夏休みなどは、毎日誰かの家でお昼を食べるという生活でした。両親も共働きで忙しかったですが、子供時代に寂しかった思い出は全くありません。商店街が家で、商店街のみんなが家族だったのだと思います。

就職をし田川市から出て、ふと実家に戻った時に目にした商店街は私の記憶の商店街の面影もなく、あれだけ溢れていた人の声も全く聞こえないしんとした、少し寂しい空気が流れる所になっていました。時代の流れて仕方のないことだと思いつつも自分をここまで育ててくれた商店街に今、恩を返すのだ！と地域活性の仕事にチャレンジするため田川に戻って来ましたがまだ、もちろん何も大それたことは出来ません。

でもこの地への将来を真剣に想えるのは商店街の人間でありここで育てて来た自分たちなのではないかと思っています。全盛期のように商店街が商店街として復活することは今の時代には求められていないと思いますが私がここで育ててよかったと思える温かな場所に復活させることは可能なのではないのでしょうか。

ここにすれば誰かがいて、楽しい時間を過ごせる。みんなが心休まるそんな家族のような商店街を作れるよう。少しずつではありますが変えていけたらと思います。私には優れた企画や行動力、リーダーシップがあるわけではないですが皆を温かく迎え入れ、「おかえり」と声をかけそして新たに人と人を繋ぐことができる人になればと思います。

オモチャハウス なかしま 中島 万智子

みなさんごとうじをなんとかせなにゃーならんという前向きに取り組む姿勢に励まされ、勇気と信頼を心から感じてこの委員会に参加できたこと、大変感謝しています。

皆様からのこのパワーをもって、昨年末よりごとうじひなめぐりのプランを進め、その中からでの新しい試み、空き店舗マルシェと昭和のべっぴんさんコンテストを開催いたしました。

おかげさまで今年のひなめぐりは、県内外、多方面から約3000人を超えるご来場がありました。その中でこのプランを進める上でキラリと光る若い力というものをとても大きく心強く感じました。彼らが志を高くして世間をみていく中で、ともにごとうじ商店街のまちづくりをプランニング&デザインし、これからもちょっと行ってみたいまちづくりをやってみようと思います。子供達や若い世代のなぜ？ どうして？ という言葉はきっと未来への大きなヒントになると思うし、私はこれを見つけて、作って、つなぐ人になっていこうと思っています。

今村茶舗 今村 千恵子

まちが変わるチャンスに多くの人々の声を届けたい、と思いこの講座に望みましたが、私自身が多くの人々の声を聞き講座を通して、まちづくりに新たな視点を得ることが出来ました。

世代を超えた交流とまちあるきによって、新たな後藤寺の魅力を感じ、今後はこの講座を通して知った、沢山の方が後藤寺が大好きで応援していただいていることを自信に変えて、後藤寺に住む私たちが中心となって、まちが変わる楽しさを、連鎖反応で広げていきたいと思っています。

長期的なもの・短期的なものそれぞれを、あなればいいなのレベルから実際に行くことに変えなければなりません。覚悟の要る作業だと思いますが、緑溢れて人が行きかい笑顔で挨拶を交わす、公共の交通が整い車がスムーズに流れる、そんな理想の街を思い描きながら動く覚悟です。多くの人と情報を共有し各所との連携を密にして、共通の目標の下進めていきたいと思っています。

② オトナたちの声

30～40代 代表 浦田 良子

40代の子育て真っただ中、後藤寺在住の浦田です。
市長、私達子育て世代が今何を求めているかご存知でしょうか？子育てや仕事に追われ、毎日慌ただしく過ごしています。

私達はそんな忙しい日々から少し抜け出したい。子供を少し預けたい。オシャレなカフェで友人とお茶をして愚痴をこぼしたい。ついでに少し夕飯の買い物をしたい。かわいい雑貨も買えたらいいな。そんなちょっとした息抜きを求めています。そんな主婦の夢を、私達は後藤寺商店街で実現させます!!

まずは、空き店舗を利用して、現役を退いている保育士さんを集め、子供預かりをします。オシャレなカフェや雑貨スペースを作り、横には家でゲームしている子供達も商店街に来たくなるようなキッズスペースを作ります。ママ友のつながりを利用し、このステキな商店街をどんどん発信していきます!!

どうか、こんな私達の夢に、市長!!力を貸してください!!

50～60代 代表 黒土 敏彦

糸田町在住の建築家・黒土と申します。
壮絶な子育てを終え、孫やペットに日々癒されている、50代60代を代表して私達の出来ることを、妄想形式で発表します。

春3月、可愛い孫ちゃんの手を引き、平成筑豊鉄道「松山駅」までお散歩。そして、可愛いデザインの「ちくまる号」に乗り込み、田川後藤寺駅へ。初めての「ちくまる号」の中で、孫の瞳はキラキラと輝いています。その様子を見て、ジイジは大満足！ちなみに片道の運賃ですが、孫ちゃんは「タダ！」私は「280円」。

早速ですが、ここで平成筑豊鉄道・河合社長に、提案があります！「孫連れ・ジジババ半額サービス」の導入の御検討をお願いします。実現していただければ、孫と一緒に毎週「ちくまる号」に乗って後藤寺に来ることをお誓いします！

さて、田川後藤寺駅を降りた、ジイジは、孫ちゃんの手を引き「丸山公園」を目指します。何てラッキーな日でしょう！そこでは、「ごとうひなめぐり」と「空き店舗マルシェ」が開催されているではありませんか！

ここからは、先日の後藤寺ひなめぐり、空き店舗マルシェの実話です。「後藤寺ちんどん」が掻き鳴らす賑やかな音に孫は大はしゃぎ。商店街のそこかしこに雛かざりが並べられ、一角からはアコーディオンの音色、そ

の横では大人の音楽教室が・・・久々にギターを弾きたい衝動に駆られるジイジ。

おっ～と！！「ミニワイン講座～～？！！！！」「飲みたいな～飲みたいな～」「孫ちゃんが一緒ヤキ無理かな～」・・・。「そういえば、おもちゃ屋さんの前で、大学生や保育士さんが子どもと遊んでくれていたな～・・・」「保育士さん、少しの間、結愛ちゃんを宜しく！」

ここで、市長に提案です。私達5・60代は、料理・手芸・音楽・工作など、様々なワークショップを行うことができます！また、各ワークショップのお手伝いや子育て相談などで、お役に立つことができます！皆の力を生かすべく、何時でも誰でも、空き店舗を利用できるような施策を、お願いします！

また、ジジババ世代の私たちが、一年中「孫と一緒に来たいな～」と思えるよう。丸山公園の整備、具体的には、遊具の充実や、小動物コーナーの復活などを行っていただけると幸いです！

70～80代 代表 長末 愛子

70代以上のシルバー世代を代表して、後藤寺中学校で教師をしていました糸田町在住の長末です。たがわ21女性会議にも属しています。シルバー世代の意見として3つにまとめました。

1つは、年を取ることの大変さ、2つ目は、私たちシルバー世代にできること、3つ目は、交通手段をどうするかです。

「年を取る」ということは、みなさんも遠からず、全員に平等に訪れることです。増える病気、足腰も悪くなり、ほとんどが障害のある方と同様に、段差や階段などに困ります。また、医療費がかさみ、配偶者が倒れたり、亡くなったり、一人暮らしの中で認知症になったり、家族がいないと大変ですし、家族がいる方は家族も大変になります。車がないと移動しづらい田川ですが、免許証の返還も余儀なく、買い物難民や通院のタクシー代も医療費とともにかさんでいきます。

しかし、これらは、いずれみなさんも通る道です。そんな私たちができることは、まちに出て、元気に過ごし、少しでも医療費や介護費を減らすことです。そう、「高齢障害者を元気にするまちづくり」です。

そのためには、いろいろな人が集まれる「おしゃべり喫茶」をつくりたいです。絵画や書、写真など田川の歴史を楽しみながら、ともに悩みや不安を聞き合い、お茶をのみ、食事をしたりすることで、若者、学生、こどもたちからも元気をもらいたい、私たち世代の話しが参考になったり、興味があることは、若い世代に話して聞かせたり。

さあ、その町へ出ていくためには、足をどうするか。ここからは、無理な面も承知で、是非、行政のお力をお借りしたい。

駅の階段をエレベーターに、西鉄バスの低床化と小型化に、駅前にバス停を、コミュニティバス、福祉バスの導入を8市町村で合理化するなど、他市や糸田、添田の事例も含め、再検討をお願いします。

ただ、お約束します！整備されましたら、後藤寺のまちに出ていくために、必ず利用します！まだまだ、言いたいことはございますが、後の意見交換で、また、お願いいたします。

いずれ訪れる、みなさんがシルバー世代になったときに困らないように、あえて、今の私からの意見とさせていただきます。

③ 若モノたちの声

中学生代表 岩本 美羽

後藤寺中学校放送部部長 岩本美羽です。今の商店街や駅前是我们が自由に集まったり、時間をつぶしたりする場所がありません。だから、私たち中学生は「集まる場所がほしい」と思っています。話し合いの中で、「インドア派」と「アウトドア派」両方の意見をまとめてみました。それは、例えばインドア派は駅の近くに小さなお店があり、そこでは学生がおこづかいで買えるような低価格の軽食が食べられる所があったら嬉しいという意見です。

理由は、習い事があり、電車を待っている子が軽食を食べられる。学校等が終わり、親の迎えを待っている時間をつぶせる。学校の勉強でわからない所を教えあえる。

アウトドア派は、まず公園の整備をしてほしいです。

例えば中央公園だと長い滑り台が錆びて滑りにくくなっているし、色ごとれてきており服に付いてしまう、部活動生がバスケットボールをよくしているが、ゴールが錆びているし、コートが線が消えかけていて危ないです。

それから、釣具屋さんを作ってほしいです。

理由は、田川には池が多く、休みの日にバスフィッシング（釣り）をしている人が多いからです。

これまで発表したことを少しでも改善してくれるなら、最初は地域のボランティア活動から始め、美しい街づくりにとりくんでいきます。

高校生代表 村上来運

西田川高校2年、村上来運です。私たちは下校時に、コンビニや駅の中で電車や親の迎えを待つことが多く、その周辺にたまりやすいために、気づかないうちに他の人たちに迷惑をかけることがあります。

なので、この待っている間を商店街で過ごせる休憩スペースを作ってほしいです！

そうすれば、少しでも商店街へ立ち寄る人が増え、さらに休日でも待ち合わせ場所としても気楽に利用でき、地域の方との交流も増えるはずで

す。そのための空きスペースを提供いただければ、商店街の方や市長の手を借りつつ、ベンチやポスターの製作、ごみ箱の設置など同じ田川市の他校の人と協力しあいながら頑張ります。もちろん、私たちが責任を持って、使い方の指導や掃除などもしていきます！

そしてこの企画を私たちの代で終わらせず後輩たちにも続けていかせるので、この提案を採用してもらえないでしょうか！

大学生代表 西表美歩

福岡県立大学社会福祉学科 西表美歩です。私が提案するのは、大学生が住む商店街「シェアハウス商店街」です。空き店舗を活用し、福岡県立大学の学生がシェアハウスできる空間を作ります。家賃はタダか格安。大学生は地域の方々と協働して商店街で定期的にイベントの企画・実行などを行います。

大学生側には、0円ないし格安で住めること、商店街の中で地域の方々と協働して様々な取り組みを行い、学び・成長につながることなどのメリットがあります。

そして、地域にとっては、「シェアハウス商店街」という珍しい取り組みで外から人が集まる可能性が生まれること、大学生という若い世代が地域の中で様々な活動に取り組むことで新たなアイデアや活気が生まれること、人が住むことで空き店舗の管理ができることなどがメリットとして挙げられます。

また、福岡県立大学がフィールドワーク型の授業として単位化することなどができれば、大学などの研究機関の資源をますます地域に還元していくことができるのではないかと考えています。地域や大学を巻き込んだこの取り組みを推進するためにも、田川市としてぜひ応援して下さい。

わたしたちの後藤寺まちづくりは、これからも続きます！

平成30年3月

“ないものねだり”ではなく“あるもの活かし”
後藤寺まちづくり

